

『地域学習を核とした地域連携の推進』

～子どもたちが関心・意欲を高め、

地域を見つめ直すことができる河口ガイドの実践を通して～

1. 目的と経緯

・発達段階に応じて、地域素材を生かした学習に取り組むことにより、地域を再発見し、生涯を通じて、地域を語ることで育てていこうという願いのもと、学校全体の特色ある教育活動として、地域学習に取り組んでいる。

・河口小学校の近くには、世界文化遺産となった富士山の構成資産「河口浅間神社」がある。その浅間神社では国重要無形民俗文化財である「河口の稚児の舞」が奉納され、お祭りの時には、地域の人だけでなく、多くの観光客が訪れる場所である。しかし、本校の子どもにとって、河口浅間神社は身近にありながらも、知られていない。また、河口の稚児の舞についても奉納されている理由や舞に込められた願いなども知られていない。学習を通して、自分たちの身近にある「河口浅間神社」や「河口の稚児の舞」のことを学び、自分たちの近くには、このような素晴らしい場所があることに気が付いてほしい。



2. 内容

・総合的な学習の時間の一環として6年生が地域の方や保護者・5年生、そして観光客に対して浅間神社周辺を案内する。保護者がより詳しく地域を知ると共に子どもと地域を語るきっかけとしたい。また、学校の関係者(学校評議員など)や学校に協力して下さっている方々(各種学習会の講師の皆さん・河口を良くする会や河口みどりの会の皆さん)に対するガイドも計画した。この活動が、学校、保護者、地域との絆作りの一助となることもねらっている。大まかな学習内容は、以下の通りである。

- (1) 職員が地域を学ぶ
- (2) 児童が地域を学ぶ
- (3) 学んだことを活かし、ガイドの原稿を作る
- (4) 5年生・保護者・地域の方にガイドをする
- (5) 観光客にガイドをする
- (6) 学びをふり返る



観光客にガイドをする様子

3. 成果と課題

- ・児童の感想やガイドに参加して下さった地域の方や観光客のアンケートを見ても、充実した学びだったことがわかる。
- ・昨年度から、教育課程に位置付け実践を行っている。さらに、充実した学びになるように検討を重ねる必要がある。